

日本で暮らす外国人住民にとって、言葉や生活習慣の違い、また母国との制度の違いなどから、地域社会のルールを覚えたり、地域の人々の中にとけこんだりすることは容易ではありません。多くの外国人住民が地域で暮らすようになって地域住民と意思疎通ができないことから、地域住民と摩擦が起こり、外国人住民が地域で孤立してしまいます。

外国人住民にとって住みよいまちは、日本人住民にとっても住みよいまちです。国籍の違いだけでなく、言語・民族・宗教などさまざまな文化的背景の違う人たちが、同じ地域の中で暮らしていくために、お互いに多様な文化があることを認め合い、それらを豊かな地域づくりに活かしていく「**多文化共生**」の視点に立って、市では以下の事業を進めています。



## 多文化共生社会への取り組み



日 時 毎週月曜日  
午後1時30分～午後3時00分  
毎週木曜日  
午後7時00分～午後8時30分  
場 所 羽曳野市役所A棟2階会議室  
費 用 無料

日本語が不自由なため「情報弱者」となりがちな外国人住民を少しでも減らすため、『**情報の多言語化**』事業を中心として、現在取り組みを進めています。

- 市内に在住する外国人住民向けに、多言語（英語、中国語、韓国語）で、必要とされる生活関連情報を掲載した「**情報誌**」を毎月作成し、公共施設などで配布しています。また、市のウェブサイトでも見るすることができます。
- 「情報誌」とは別に羽曳野市で生活する上で最低限の情報を掲載した「**冊子**」を作成しました。現在、市役所において希望者に無料で配布しています。
- 外国人住民の方々が、安心でき、快適に暮らすことができるよう「**多文化共生推進ボランティア登録制度**」を設けています。現在も語学ボランティアをはじめ、さまざまなボランティアを募集しています。詳しくは、市のウェブサイトをご覧ください。

（市ウェブサイト<http://www.city.habikino.osaka.jp/>）

他に、日本語が不自由なまま来日し長期的に滞在する外国人住民向けの**日本語教室の運営**支援（運営母体は「羽曳野国際交流ボランティアサークルみやび」）をしています。【8月中は夏休みのため開催していません。9月から開催いたします。】

日本語の学習に重きをおいて、外国人住民の方々とのお互いのふれあいや文化交流を通して、お互いの理解と協調ができることをめざしています。

## “みやびの集い”開催!

日本語教室を行っている「羽曳野国際交流ボランティアサークルみやび」主催で、6月7日（日）市民会館において、『交流パーティー“みやびの集い”』が開催されました。

当日は、外国人住民〔中国・韓国・ペルー・スリランカ・ベトナム・フィリピン・アメリカなど出身〕と家族、日本人ボランティアなど、総勢102人（外国人住民56人、子ども12人、日本人34人）が集まりました。

内容は、学習者によるスピーチ（祁夢平さん、王亜謙さん、ゴー・トウアン・アインさん）や手品・新舞踊のパフォーマンスなど、多くの外国人住民の方々が参加し、1日楽しく交流されていました。



### <“みやびの集い”に参加した外国人住民の声>

会場いっぱい飾られた万国旗に自分の国の旗を見つけ、とてもうれしかったです。〔スリランカ出身〕  
一年に一度、皆さんが大勢集まる場に声をかけてくださり、ボランティアの先生方と会えるのはうれしいです。〔中国出身〕  
毎年異なったパフォーマンスが楽しいです。〔韓国出身〕  
いろいろな国の人たちと出会えて楽しいパーティーです。〔アメリカ出身／フィリピン出身〕